



進学事典

『進学事典』で学校案内を請求 漠然とした思いを“やる気”に転換

— 愛知・県立 かくじょうがおか 鶴城丘高校 —

取材・文／永井ミカ



進路指導部・3年学年主任
前田健次先生

School Data

創立1909年／総合学科
生徒数718人(男子353人・女子365人)
進路状況(2012年度)／大学・短大進学28%
専各進学25%・就職47%
愛知県西尾市亀沢町300
TEL 0563-57-5165
URL <http://www.kakujogaoka-h.aichi-c.ed.jp/>

前田学年3年間のキャリア教育

1年生 立志ステージ
2学年からの系列を選び、進学か就職かを考える
<ul style="list-style-type: none"> ・R-CAP実施 ・系列の説明・お話し期間(「総合基礎」)スタート ・進路部講話(前年度の結果について) ・R-CAP解説・ワークシート ・職業人講話(マスコミ、警察・自衛隊、市役所) ・言葉を使った発表① レポート、発表の基礎 ・2年生からの総合選択科目の説明→系列決定 ・言葉を使った発表② 表現・グループワーク ・職業人講話(大学教授) ・「じぶん未来BOOK」講演 進路計画編 ・言葉を使った発表③ クラスルームディベート ・ディベート クラスマッチ→モデルディベート
2年生 探求ステージ
職業観を深める。また、自分が学んでいることと進路との関わりや、夢の実現に向けて何が必要かを考える
<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間スタート(進学先についての情報を得る／就職に向けて自分をどう磨くか) ・起業家講話(会社・社会が若者に求めているもの) 【進学】大学見学 【就職】インターンシップ ・修学旅行(韓国での異文化体験と交流) ・上級学校の授業体験 ・先輩の体験談(成功の理由・失敗のくやし) 【進学】進学事典を活用して「当面のターゲットを決めよう」(講演・学校調べ・ワークシート・資料請求)
3年生 実現ステージ
個別指導や自学自習習慣の確立を通し、進路実現に必要なものを確実に粘り強く身につける
<ul style="list-style-type: none"> ・進路部からの講話(進学・就職別) 【進学】学び方を学ぶ(協同学習・マインドマップなど) 【就職】面接練習・県によるクラフトマン育成事業参加・SPI練習 【進学】大学見学ツアー・進路講座・作文指導 【就職】面接指導・マナー講座・志望理由書の練習

1学年では「産業社会と人間」、2学年以降は「総合的な学習の時間」を中心に実施。

進学事典活用講演後の調査より

● 何に向いているか知ろうと思った	87%
● 学校をもっと調べようと思った	98%
● 学問をもっと調べようと思った	85%
● 仕事をもっと知ろうと思った	84%
● 学校パンフレットを取り寄せようと思った	69%
● 学校を見にいこうと思った	88%
● もっと勉強しようと思った	91%
● 何かやる気がわいた	87%

愛知県立鶴城丘高校は創立100年を超える伝統校。かつては農業・工業の学科からなる専門高校だったが、2004年度より7系列をもつ総合学科として生まれ変わった。生徒の多くは就職か進学か進路を迷いながら入学するが、3年間のキャリア教育を通して目標を見つけ夢を実現していく。3年後の進路先は多岐にわたる。

**プレッシャーを与えず
じっくり進路を考えさせる**

「こういった環境の中から、進学したい生徒を育てるため、NOプレッシャーを基本としています」と言うのは、進路指導部・3年学年主任の前田健次先生。生徒の学力差も大きく、学年ごとのカラーもがらりと変わる同校では、受験、受験と生徒にプレッシャーを与えたりせず、ゆとりと進路について考えられる環境を提供するよう心がけている。本物を見せ(上級学校見学など)、話を聞かせ(体験談や面談)ながら、自分から

進学をしたい、そのために勉強をしようという気持ちになるよう育てていく。

2年次からの系列を決めるため、1年次の5月から7系列の授業を順に受けられるシステムを導入。6月には職業や学問の適性を探るために「R-CAP」やその解説ワークシートなどに取り組み、さまざまな職業人から「働くこと」に関する講話を受ける。じっくりと「何に向けて何を学ぶか」を考え、選択科目を決定するのだ。

**『進学事典』の活用で
やりたいことが自覚できる**

2年次では、キャリア教育は徐々に進望希望者と就職希望者にプログラム分けされる。進学希望者には、大学見学バスツアーを実施したり、上級学校を招いての授業体験を行うなど本物を見せる。

こうして、少しずつ進学への意欲を引き出し、3月に希望者に向けて『進学事典』を活用した講座を実施。「どのように志望校

を絞り込んでいけばよいか考えあぐねている生徒が多いので、学校比較のポイントから解説してもらっています」と前田先生。1コマで解説を聞き、2コマで事典巻末の学校比較のワークシートに取り組み、「生徒には、とにかく現時点で、どんな理由でもいいから興味がある学校を調べるように指導しています。これまでの、漠然とした思いを見える化、言える化、する最初のところ。資料調べを通して、自分の本当にやりたいことを自覚させるのがねらいです」。

その場で資料請求をし、春休みに届いた学校パンフレットを使って学校比較をするワークシートを課題として出した。

「3年間楽しく過ごすということを大切にしたい」という前田先生。「自分で自分の勉強のモチベーションを高めることができるようになると、成績も向上してきます。すると、進学に対する意識も積極的になってきました」と言う通り、学びたいことを学ぶために国公立や県外の大学に挑戦する生徒も徐々に増えている。